

平成31年度（令和元年度） 学校評価表

品川区立日野学園

校長 西島 勇

日野学園校区教育協働委員会

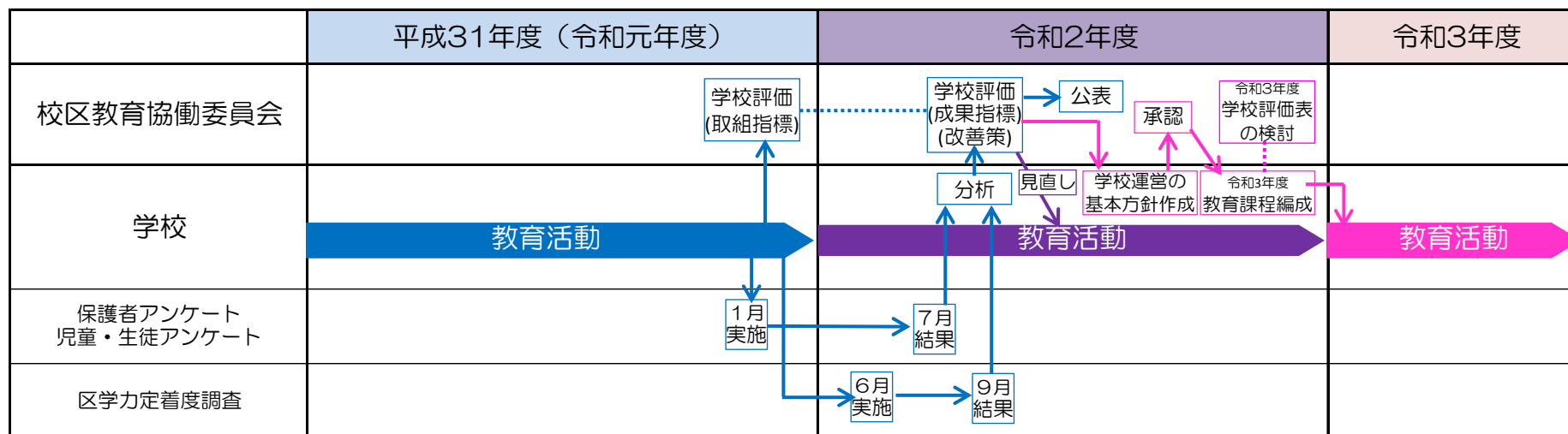
委員長 石井 久雄

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正 平成31年3月28日教育長決定要綱第8号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

- (1) 学力に関すること。
- (2) 人間性や社会性に関すること。
- (3) 体力・健康に関すること。
- (4) いじめ防止の取組に関すること。
- (5) 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

学校評価の流れ（※平成31年度（令和元年度）の学校評価が令和2年度および令和3年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



評価項目 1 学力に関すること

重点目標		◎義務教育学校の9年間の系統的、継続的な指導を通じて、学力の向上と「自学自習の体得」する力を育成する。・基礎基本の定着を図るため、根っこの時間、ステップアップの時間を活用するとともに、定期的な確認テストを行うなど、「日野カリキュラム」を確実に実施する。・各教科で表現力向上のための授業改善に取り組むために、校内研究を推進する。・少人数習熟度別学習の確実な実施により、児童生徒の個々の能力に応じた学習を行い、各自の学力を向上させる。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	区学力定着度調査では、 <u>校内平均正答率において、80%の教科で目標値を上回る。</u>	校内平均正答率において、80%の教科で目標値を上回っている。	A	<p>○学力調査では、どの学年も目標を達成することができた。おおむね学校として、学力が定着していると考えている。学力の定着が不足している児童生徒に対する補充学習の取組をさらに強化していく。具体的には、未来塾の補充教室の回数を増やしていく。</p> <p>○研究活動は、コロナ禍であったが、予定通り実施することができた。学校の柱として位置付け、ファミリーを中心に学び合いを行い、指導力を高めることができ、次年度も継続する。</p> <p>○研究発表会の4つの柱をさらに充実させることができた。今後も研究活動を通じて教員同士の提案を実践につなげていく。</p>
	学習内容の定着を徹底するため、授業マネジメントサイクルを確実に回す。そのために、校内研究を年間10回行う。	<p>校内研究を通して、系統的な取組について話し合うことができた。校内研究を重ねることにより、一層深い教科指導をすることができた。</p> <p>授業を改善していくために、校内研究組織のファミリー制度を活用し、研究授業の充実を図ることができた。特に、経験の浅い初任から数年の教員に対して効果が大きかった。</p> <p>後期課程の教科主任が前期課程の教員へ教科指導の研修会を実施する等、通常の校内研究会の中で年に一度校内研修会を実施してみてもよい。義務教育学校ならではの取組となる。</p>	A	
	年間を通して、習熟度別学習を算・数/英で実施し、個々の学力を向上させる。	<p>算数では、単元ごとに行い、習熟度にあった取組ができた。数学科で補習などを行い個別指導の時間を授業時間以外に作った。</p> <p>毎月校内研究を行っている</p> <p>数・英ともに習熟度学習を行っている。</p> <p>前期課程では算数において習熟度別少人数学習をしている。1単元内における指導の流れが定着している。</p>	A	
区研究指定校として、一貫教育の検証を進める。	2020.1.24研究発表会を行い、開校14年間の教育実践をまとめることができた。この研究発表の成功を、今後十年間の指針とし、さらに義務教育学校ならではの特色を打ち出していく。学力向上分野の、組織・個人・環境の3つの視点は、全ての教科の指導に有効であるため、全教科への横展開をしていく。	A		
②	「家で勉強する時間を決めている」と肯定的な回答をする児童生徒を80%以上にする。(区学力調査における意識調査)	肯定的な回答をする児童生徒を80%以上となっている。	A	<p>○調査の結果、自己肯定感も高くなっている。学校での活動や友達との関係が良好であることが、要因として考えられる。また、家庭での生活も安定していると思われる。今後も学校と家庭との連携を進めていく。</p> <p>○連絡帳や一行日記は、子どもと家庭・学校をつなぐ有効なツールである。さらに充実させていく。</p> <p>○未来塾・補習塾、英検対策講座など参加者も多く大きな成果を上げることができた。区とも連携を取り、さらに充実させていく。</p>
	家庭学習を定着させる。家庭学習ノートや宿題の提出を毎日確認する。	<p>連絡カードを活用し、確認できた。</p> <p>毎時間宿題を出し、取組状況を確認できた。</p> <p>個別に声をかけて習慣づけるようにした。</p> <p>毎日の家庭学習の提出率をクラスで集計し、提出を促した。</p> <p>各クラスで声掛けを行っている。</p>	B	
	品川地域未来塾を活用し、放課後補充学習を行い、個々の学習課題の解決のための機会を設定する。	サマースクールや進路対策講座、教え合い教室での品川地域未来塾の活用を推進することができた。これにより放課後補習を充実することができた。さらに指導者の確保をしていく。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目2 人間性や社会性に関すること

重点目標		◎義務教育学校として義務教育9年間を通じて、一貫の良さを生かした多様な「かかわり」を経験させ、豊かな人間性、社会性を育成する。・今年度は「環境を整える」を教育活動の基本とした継続的な指導により、正しい人権感覚と高い規範意識を育てる。・全学年年間を通じて、計画的な市民科学習を行い、児童生徒が学んだことを日々の生活に生かすことができる指導を行う。・多様な交流活動を実施し、活動の中で思いやりや責任感・積極性が育つように指導する。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	「学校が楽しい」と感じている児童生徒を80%以上にする。(区学力調査における意識調査)	「学校が楽しい」と感じている児童生徒を80%以上になっている。	A	○「学校が楽しい」の項目でも目標値を上回ることができた。さらに子どもたちが成長を感じられる取組を進める。しかし、この課題は、常に児童生徒一人一人の状況を見ていかなければならない。常にアンテナを高くしていく。 ○市民科にも系統的に取り組むことができた。特に今年度はSDGsを通しての学びを進め、少し形になってきた。次年度さらに進めていく。
	全教育活動を通じて、学力と豊かな人間性を育てる。また、一貫教育学習要領に準拠した市民科学習を確実に実施する。	生徒一人一人が「学校に来る意味」を見出せるような学校づくりを行う。 市民科系統表の作成は今後の日野学園市民科学習にとって大変大きな成果である。系統表を毎月確認し、市民科学習の進捗について市民科推進教師が確認していくことも必要である。	A	
②	「ルールを守って学校生活を送っている」児童生徒を80%以上にする。(区学力調査における意識調査)	「ルールを守って学校生活を送っている」児童生徒を80%以上になっている。	A	○全体的には、ルールを守り、安全に生活することができている。子どもたちの規範意識も高くなっている。日ごろの指導の成果であると考え。また、家庭の協力も大きい。家庭とも連携を継続していく。 ○挨拶も課題であったが、「自然に自分からする」が徐々に定着してきている。保護者や地域の評価も高くなっている。日々の積み重ねが大切であると考えている。児童生徒会の活動と連携をしていく。
	毎日、積極的な「あいさつ」ができるよう、生活委員会で「あいさつ週間」に取り組む。	学校のルールについて、朝や帰りの学活時はもちろん、場をとらえて指導を繰り返してきた。 生活委員会の取組を受け、自分から挨拶をしようとする児童生徒が増えてきていると感じる。 週番でスロープに立っている際、挨拶ができていないことに気付く。こちらから積極的に挨拶をすることを心がけた。 「あいさつ週間」で効果が出たことから、「姿勢」「手洗い」「歯みがき」等、委員会活動でキャンペーンを行うことができた。	B	
	「いじめのない学校づくり」のために、児童生徒会が主体的な取組を推進できるような指導を行う。	全校朝礼をうまく利用して、自分たちから課題を解決しようとする取組ができてきた。 児童生徒会担当として、各委員会と協力し、学校全体で「あいさつ」に前向きに取り組んでいく。 8年生ではクラスごとのいじめ防止のスローガンを作り、防止に努めた。	A	
③	「学校行事が有意義な活動だ」と感じている児童生徒を80%以上にする。(校内調査)	行事ごとに目標を持たせ達成感を与えている。	A	○各行事でも達成目標をしっかりと設定したこと、指導が明確になり、児童生徒に達成感をもたせることができた。継続していく。さらに内容の検討・改善もしていく姿勢が大切である。 ○交流活動は、義務教育学校である本校の教育活動の大きな柱である。今年度も活動を工夫をして、大きな成果を上げることができた。常に改善をしながら次年度も継続していく。 ○各行事や交流活動では、異学年交流を活発にすることで、児童生徒が互いに学び合い、さらに向上心が高まっている。上級生が模範を示し、下級生が学ぶという姿勢ができてきている。次年度も継続する。
	B&S・FSS・EN・たてわり活動などの意学年交流活動を通年実施する。	月1回の1-4縦割り遊びで、交流することができた。 交流活動を活発に行い、定着しつつある。 異学年交流を計画的に実施できた。 交流活動が工夫され、頻度も多くて良いと思います。 FSSとそれぞれの教科の繋がりを強化していき。 FSS・EN活動では、文化祭合唱練習など新たな取組も加わり充実した。教師・生徒ともにリーダーシップとコミュニケーションの向上に手ごたえを感じている。 交流活動が年々工夫され、機会が増えていて良いと思う。 年間を通して様々な有意義な活動を行っている。 既存の交流活動の内容をさらに充実させていくためには、児童生徒相互の関わりの質を高めていく。そのためには、児童生徒の主体性・自主性に着目し、児童生徒に任せるところと教師が仕切るところの区別をきちんとしていく。	A	
	運動会・文化祭・学習成果発表会などの学校行事を通じて、異学年で交流する実践を設定する。	学校行事は児童生徒が大きく成長できる場の一つでもある。一つ一つの行事を大切に、行事の意義を児童生徒にも伝えていく。 7年生からソーラン節を教わり、交流することができた。 活発に行っている。 異学年交流を計画的に実施できた。 文化祭でのビデオメッセージ等、プログラム上、時間の制約などある中、あたたかみのある異学年交流が実施できた。	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目3 体力・健康に関すること

重点目標		〇義務教育9年間を通して、体力の向上や健康に対する意識を高めようとする力の育成を図る。 ・年間を通じて運動量を確保し、体育的活動を充実させる。 ・ニュースポーツ体験やオリンピック・パラリンピック教育を進めながら生涯にわたり運動習慣を定着させる。 ・オリンピック・パラリンピック教育の取組を通じて、国際理解の定着を図る。 ・食や健康に関する知識や関心を高めさせる。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	体力テストにおいて、全ての項目で全国平均を超えている。(都体力調査)	<p><前期課程></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全国平均を超える種目が増え、体力の向上が見られるが、苦手種目は変わらず苦手なままである。 ・ 個人の総合評価の上位層の割合がこの3年間で飛躍的に増え、下位層も大幅に減っている。 ・ 50m走はどの学年もほぼ全国平均並み。 ・ 力をつけていきたい種目は、握力、上体起こし、シャトルラン、ソフトボール投げ(特にソフトボール投げは全学年において全国平均を大きく下回っている・投げる力を一人当たり2~3m伸ばす必要がある) <p><後期課程></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各学年で全国平均を下回る項目が目立つ。特に、長座体前屈とハンドボール投げの項目は低いスコアになっている ・ 長座体前屈の記録が低下しており、身体の成長に合わせて柔軟性や調整力を高める運動を体育授業等で継続的に取り組んでいく必要がある。 	C	<p>〇全国平均を上回る種目は増えたが、まだ、目標に達していない種目もある。ここ3年間で、運動能力は大きく改善はしてきている。日常的な運動の活動を増やしていることと、部活動を活性化していく方向性は、良いと考えている。不得意な種目に応じた取組も考えていく。</p> <p>〇前期課程では、体育部を中心に運動に関する指導の学び合いを行った。今後も、ワンミニッツエクササイズを取組を各学年でより一層進めていく。</p>
	体育部が中心となり、体育授業の指導方法についての校内研修を年間3回実施する。	<p>今年度中に次年度の体育校内研修を年間予定に入れる。特に1-4年担任は全員が体育の指導を行うため、該当教員を対象にした体育研修を必ず行う。(例:1学期水泳指導・2学期運動会指導・3学期保健体育指導)</p> <p>8月の校区教育協働委員会分科会では体育分科会を開き、本校の体力面での課題を明らかにし、体育分科会として共通実践を決定することができた。体育主任を中心に、この共通実践を通じてどのような成果が表れているのか、以降の実践状況を確実に把握していくことが課題である。</p>	B	
②	75%以上の児童生徒が運動習慣を定着させている。(運動習慣調査)	<p><前期課程></p> <p>毎日運動していると答えた男子は4割、女子は3割にとどまっている。</p> <p><後期課程>「体育や部活以外に運動することはあるか」</p> <p>男子 よく・時々含む68%(全国平均67.6%)</p> <p>女子 よく・時々含む54.2%(全国平均63.6%)</p>	C	<p>〇運動習慣の定着では男女とも5割を切っている。学校と家庭との連携が必要であると考え。品川スポーツトライアルをさらに有効に活用していく。</p>
	品川トライアルをブロック活動に取り入れたり、期間を設定しワンミニッツエクササイズを全学年で実施したりする。	<p>品川スポーツトライアルを実施することができた。</p> <p>ワンミニッツエクササイズについては、家庭での取組も含まれるため、保護者会等を通じて家庭と連携した取組を継続していく。</p> <p>ワンミニッツエクササイズを授業の前後に取り入れた指導をしていく。</p>	B	<p>〇ワンミニッツエクササイズを取組は定着してきている。目標を設定することと、複数の子どもたちで取り組むことが有効であると考え。</p>
	ブラインドサッカーなどの東京オリンピック・パラリンピック品川区開催競技にふれ、運動する楽しさを味わう。	<p>ブラインドサッカーの授業に意欲的に取り組んでおり、楽しさを味わうことができた。</p> <p>8年でブラインドサッカーを実施した。楽しく取り組むことができた。</p> <p>5組は通常級と楽しく競技に触れることができた。</p> <p>8年生で実施し、有意義な時間にできた。</p> <p>5年生は地域企業の協力を得て、VRブラインドサッカー教室を実施することができた。競技特性の触れるだけではなく、体験を通じて、ユニバーサルデザインについての理解を深めることができた。</p> <p>各学年一つ以上のイベントを実施することができた。</p> <p>1年 かけっこ教室(アシックスジャパン・都コーディネート事業)</p> <p>2年 コロンビア交流学習(コロンビアパワーリフティング代表選手との交流学習と交流給食)</p> <p>3年 盲導犬教室(日本盲導犬協会・都コーディネート事業)</p> <p>4年・6年 FC東京サッカー教室(都コーディネート事業)</p> <p>5年 おも活(日本ケアフィット共育機構・都コーディネート事業)</p> <p>7年 パラトライアスロン教室(日本トライアスロン連合・都コーディネート事業)</p> <p>8年 ブラインドサッカー教室(区応援競技)</p> <p>9年 車イステニス教室(日本車いすテニス協会・都コーディネート事業)ツバル学習(在京ツバル総領事館・都コーディネート事業)</p> <p>全学年韓国交流学習(韓国留学生・世界ともだちプロジェクト)</p>	A	
③	給食の残菜率を10%以下にする。(校内調査)	<p>自分のクラスは少し残菜率が高い気がするので、改善したい。</p> <p>偏食の児童に対して効果的な指導ができなかった。</p> <p>食品ロスについて学習してから、意識が高まった。今後なるべく残菜を出さないよう指導していく。</p> <p>残ゼロに取り組むが達成はできていない。</p> <p>給食委員を中心に、毎日残ゼロに向けて声かけを行っている。</p> <p>5組ではほとんど残菜が出なかった</p> <p>7年生では各クラスできている。</p>	B	<p>〇給食の残菜も少なくなっている。給食委員会や各学級での指導の成果であると考え。さらに家庭とも連携が必要である。今後も継続をしていく。</p> <p>〇食育の活動はさらに内容を工夫しながら、継続していく。SDGsの学びの中で、意識を高めていくことも一つの学びの方法であると考え、児童生徒と一緒に考えていく。</p> <p>〇給食委員会の取組は改善をしながら、継続していく。</p>
	1-4年、5-9年ブロックにわたり食育を行い食事から摂る栄養の大切さを身に付けさせる。	<p>6年の家庭科で学習する。</p> <p>給食前に給食委員が献立を読んで伝えている。</p> <p>トウモロコシの皮むきやさやえんどうのすじとり等、給食食材に触れる機会を充実させたことで食べ物を大切に作る姿勢が育った。</p> <p>8年生では、2月に講師の先生を招き食育の授業を行う予定</p> <p>毎時間献立のメニューや献立についての知識を確認した。</p>	A	
	委員会の活動で残菜ゼロキャンペーンを実施する。	<p>残ゼロキャンペーンでの声かけがあるおかげで、残菜が多い自分のクラスでも、残ゼロを達成することができている。</p> <p>普段の取り組みに加え、キャンペーンがあることで、意識が高まった。</p> <p>体育委員中心に取り組んだが、達成できなかった。</p> <p>給食委員を中心に、毎日残ゼロに向けて声かけを行っている。</p> <p>キャンペーンを効果的に実施することができた。</p> <p>生徒たちの意識がより高まった。</p>	A	

評価項目4 いじめの防止の取組に関すること

重点目標		◎義務教育学校として義務教育9年間を通じて、いじめを根絶するために、周囲への思いやりの心を育て、自己有用感・自己肯定感を高めていく。・友達のよさを見付け、お互いを尊重する気持ちが育まれるよう指導する。・児童生徒の自主的な取組を充実させる。・いじめの早期発見と早期解決を図るため、全教職員が全児童生徒の情報を絶えず共有し、児童生徒の心情の変化を見逃さない。いじめ対策委員会の活動を推進し、いじめの根絶と防止に努めるとともに、早期対応に取り組む。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	いじめのない学校を実現する。(生活アンケート・実態調査)	生活アンケート、実態調査等を通して、迅速に対応することができていると思う。 SNSに関わる生徒間のトラブルがあったが、学校として組織的に対応することができた。今後もSNSに関わる生活指導を含めたいじめ防止の取組を継続していく。	B	○生活アンケートやいじめ調査は、確실히行っている。調査するだけでなく、分析し、子どもたちの状況を把握し、すぐに指導する体制を整えている。いじめ調査では、記入があったものは全件対応をして情報を共有している。 ○SNSでのトラブルも早期対応をして、保護者と連携をしながら取り組んだ。全体的には落ち着いている。 ○主任主幹会議で、毎日状況を把握する共に、毎週金曜日には、養護教諭とスクールカウンセラーも交えて「いじめ対策委員会」を開催し、情報交換をし、生活指導の方針を明確化している。今後とも継続をしていく。 ○いじめや生活指導の問題については、油断することなく、常にアンテナを高くし、情報を個人で止めず、必ず、管理職にも報・連・相させている。保護者との連携が大きなカギになる。
	毎朝の職員打ち合わせで、配慮を要する児童生徒の情報交換を実施する。	学年内で配慮を要する生徒について情報共有がしっかりできた。 生活指導部会を月1回行い、さらに学校の児童生徒の情報交換が密にできている。	A	
	6月、11月、2月のふれあい月間の取組の充実を図る。	実施していることに安心せず、結果を丁寧にみることで、実施することの目的を見落とさないようにする。 小さな記述についても全件対応している。	A	
	生活アンケート(4・5・9・10・11月)を実施し、児童生徒の小さなSOSサインを見逃さない。	生活アンケート実施により、担任が児童の様子を細かくみるきっかけになったのが良かった。 アンケートをもとに対応できた。 生活アンケートをもとに、担任が一人一人と丁寧に向き合う時間をもつことができた。 学年でも共有し見逃さないようにできた。	A	
	いじめ対策委員会を毎月実施し、配慮を要する児童の経過や、対応策について関係職員で検討する。	毎週金曜日の朝の時間にスクールカウンセラーや養護教諭をまじえて、児童生徒の心身の状態について気になることの情報共有を行っている。 スクールカウンセラー、巡回相談員など様々な担当と連携を図ることができている。情報共有の速度と正確性は高い。	A	
	配慮を要する児童生徒の保護者との連携を十分に図る。	保護者との連絡体制を今後も確実にしていく。 従来から保護者との連携は十分に図られてきたが、今後も継続していく。	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目5 (特色ある教育活動に関すること)

重点目標		◎「国際社会で自己実現を果たす子供たちの育成」に向けて、義務教育学校の良さを生かした、教育活動を推進する。・1年からの継続的な英語教育を重点とし、国際理解を深める児童生徒を育成する。・地域との連携を深め、地域活動に積極的に参加する児童生徒を育てる。キャリア教育の推進と、自らの生き方を広げ、目標実現のためのプロセスを学ぶ。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	「英語が好き」と感じる児童生徒を80%以上にする。(区学力調査における意識調査)	「英語が好き」と感じる児童生徒を80%以上になっている。	A	<p>○各種学力調査においても英語の学力の定着と向上が見られている。未来塾や補充学習を充実させた結果も出てきている。</p> <p>○日々の学習を充実させている。ALT・JTE・講師と担任や英語科教員が連携を取り、共に学び合いをしていることが成果につながっている。次年度もさらに内容を検討しながら継続していく。</p> <p>○都の英語入試の先取り試験にも参加し、生徒の意識を高めることができた。</p> <p>○今年度は、5・6年の英語学習もJTEと担任1時間、JTEと後期課程教員1時間に変更した。このことにより、より各教員間の連携が進むと共に皆が責任をもつようになり、成果を上げることができた。次年度も継続する。</p> <p>○次年度も区などの予算を最大限活用し、様々な取組を行っていく。</p>
	5・6年で週2時間の英語の時間を設定し、後期課程とのつながりをより強くする。	設定している。授業の内容について一部改善を図り、より後期課程とのつながりを意識した授業になるよう工夫もできた。	A	
	年3回の英検受検者へ、受験対策指導を品川地域未来塾として実施する。	予定通り実施することができた。英検模擬テストでは希望者が回を重ねるごとに増え、実績も上がっている。保護者ボランティアとの実施内容検討も行き、ヘッドフォンや音響機器等のハード面での環境整備も整い始めた。今後も英検模擬テストの準備作業をしていただく保護者ボランティアの意見を踏まえ、学校支援地域本部の設備面での強化をしていく。(印刷機・コピー機)	A	
	JTE・ALTと担任が連携した学習や、後期課程の教員による授業を行い、連携を強化した授業にする。	JTEと後期課程の教員による授業をすることで質の高い英語を聞くことができると感じる。あとは楽しみながら児童の主体性を伸ばすことに力を入れいく。 小学校英語が移行期だったこともあり、50時間のJTEと20時間の後期課程先取り学習で、内容の関連性について課題が残った。次年度は70時間全てJTEが入り、文科省の教科書の内容を全授業で取り扱うため、内容の関連性についての課題は改善される。引き続き後期課程英語教員も指導に入る。	B	
②	地域奉仕活動へ、5-9年の75%以上の児童生徒が年1回以上参加する。(校内調査)	地域清掃に参加する児童生徒が多いと思う。 参加する児童生徒を増やしていくためには、声掛けやチラシ配布のほか、児童生徒会が主体となって様々な取組を実施していく。	B	<p>○今年度も児童生徒会を中心にして、多くの子どもたちが地域活動に参加し、豊かな学びをすることができた。特に、地域清掃、祭礼、区民祭り等で子どもたちが活躍することができた。地域のつながりは、本校の教育活動の柱である。次年度も継続していく。</p> <p>○今後のキャリア教育の推進の方針に関わり、五反田バレー等の地域人材の活用を進める。</p>
	地域行事・地域の奉仕活動・児童生徒会活動などの地域活動を、計画的に実施する。	児童生徒会の生徒、吹奏楽部の生徒をはじめ、多くの児童生徒が地域行事や奉仕活動に取り組んでいる。 児童生徒会活動を通して、地域清掃やお祭りだけでなく、自発的に交流できる機会を増やしていく。(日野愛ほっとステーション等)	A	
③	キャリア教育を推進するため、地域や外部人材を活用した学習活動を実施する。	地域の商店への社会科見学、地域の人材を活用した出張授業、職場訪問・職場体験・ドリームジョブツアー等、発達段階に応じて計画的に実施できている。 ドリームジョブに、8・9年の2学年が参加するようになって2年目。9年生が昨年の経験を生かして、企業の方と積極的にコミュニケーションをとり深めることができた。 8学年では学年活動で外部講師を毎年呼んでいる。	A	<p>○地域との連携や人材の活用はかなり進み、地域からの信頼も高めることができていく。次年度も地域とともにキャリア教育を推進する。</p> <p>○次年度は低学年にも地域の人材を活用した取組を活発化する。</p> <p>○ドリームジョブも形を変えた取組にし、さらに充実させる。</p> <p>○コミュニティ・スクールの活動も定着してきている。学校地域コーディネーターを中心に地域とも連携もできている。今後も継続をしていく。次年度は学校地域コーディネーターを増員する。</p>
	日野学園地域学校支援本部の学校支援コーディネーターを中心にした活動を、地域との交流の柱として位置付ける。	現在行っている地域交流をコーディネーターの力を借りて継続・発展させていくことで、CSとしての活動がさらに充実し、地域との交流の大きな柱となっていく。 コーディネーターと教員とのさらなる連携が必要である。保護者ボランティアの募集を継続していく。 町会の回覧板に保護者ボランティア募集のお知らせをさせていただくことも検討	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成